

天皇皇后両陛下 戦没船員の碑にご供花 ～平成最後の祈り～

潮 騷

第 48 号
令和元年
8月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五
海事センタービル
電話 〇三三三三四〇六六二
FAX 〇三三三三四〇六八二



天皇皇后両陛下（現・上皇上皇后両陛下）は、平成31年1月21日（月）、先の大戦で犠牲となった戦没船員6万余人の慰霊のため、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）を訪れご供花された。

両陛下が、正午頃「戦没船員の碑」にお着きになると、朝倉次郎日本殉職船員顕彰会会長がご先導し、武藤光一日本船主協会会長、森田保己全日本海員組合組合長、小比加恒

久日本内航海運組合総連合会会長、重義行大日本水産会専務理事、半田收日本殉職船員顕彰会理事長、後藤美津子戦没船員ご遺族代表、久保徹神奈川県横須賀土木事務所所長がお出迎えた。

両陛下は、「安らかに眠れ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石の前の献花台にゆっくりと進み、白菊の花束を捧げ深々とご拝礼された。

ご供花の後、天皇陛下はご遺族の後藤美津子さんに「残念なことでしたね。どうぞお元気で」、皇后陛下は「ご苦労なさいましたね」と労いのおことばをかけられた。

「戦没船員の碑」は、戦没船員の御霊を慰めるとともに海洋永遠の平和を祈念して、昭和46年3月に観音崎公園に建立された。同年5月、第1回戦没船員追悼式は、皇太子同妃殿下（現・上皇上皇后両陛下）の行啓を賜り、降りしきる雨の中で執り行われた。追悼式は毎年執り行われているが、両陛下は、折りにふれ「戦没船員の碑」を訪れ、ご供花されている。平成17年の第30回戦没・殉職船員追悼式では、おことばを述べられた。このように「戦没船員の碑」にお出ましになられご供花されるのは今回で8回目。平成17年7月には、終戦60周年記念「戦没殉職船員遺族の集い」（東京平河町・海運ビル）にお出ましになられ遺族の皆様

労いのおことばをかけられている。平成27年12月、天皇陛下は82歳のお誕生日に、第45回戦没・殉職船員追悼式では亡くなった船員のことを思い、供花しましたと述べられている。（9面に関係記事）



ご遺族の後藤美津子さんにお声をかける
両陛下



ご供花される両陛下。右上は朝倉会長

海洋永遠の平和を

第49回戦没・殉職船員追悼式

戦没船員の碑



戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を祈念して黙とうを捧げる

平成から令和になって初めての第49回戦没・殉職船員追悼式は、5月15日(水)、神奈川県立観音崎公園(横須賀市)の鎮魂の碑「戦没船員の碑」で、全国各地からご遺族をはじめ立法および行政の関係者、海事関係団体ならびに業界代表者ら約500人の参列者が集い、おごそかに執り行われた。

追悼式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊長 植田哲夫3等海佐の指揮による「真白き富士の根」「椰子の実」「千の風になって」の曲が演奏されると、参列者は静かに聴き入っていた。

式典は午前11時、開式の辞に続いて、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏にあわせ、参列者全員が国家斉唱の後、「国の鎮め」の曲が流れる中、戦没・殉職船員6万3614人の鎮魂と海洋永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

日本殉職船員顕彰会を代表して、朝倉次郎会長が「式辞」を、国を代表して「内閣総理大臣追悼の辞」を、大塚高司国土交通副大臣が代読し

た。続いて献花に移り、海上自衛隊横須賀音楽隊によって、平成12年、日本海事広報協会と日本殉職船員顕彰会が共同で制作した、海に殉じた人々への鎮魂曲『君は帰る母なる海へ』が演奏される中、朝倉会長、遺族代表、大塚国土交通副大臣、海事振興連盟、各界代表の献花に続いて参列者全員が、「安らかに眠れ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石の前の献花台に白菊を供え、今なお蒼海深く眠る戦没・殉職船員6万3614人の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和と安全を願って祈りを捧げた。

強い日差しが照りつける中で始まった式典は、参列者の献花が終わるころに、天気が崩れ大粒の涙雨に変わり、雨に濡れながら、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

式典終了後、参列者は恒例の懇談会が行われる、観音崎京急ホテルへ送迎バスで移動した。

上皇上皇后両陛下が「戦没船員の碑」にご供花されたことをテレビ・新聞等の報道を見て、顕彰会に問合せ「戦没・殉職船員追悼式」が挙行されていることを知って、初めて参列した戦没船員のご遺族を交え、毎年参列しているご遺族・OB船員や海事関係団体、海運・水産関係の皆様が、再会を喜ぶ声とともに和やかに歓談、交流を深めていた。

能楽「海霊」奉納

能楽「海霊」は、先の大戦で戦没した船員6万余人の霊を慰め、その徳をあきらかにし、併せて平和を祈るために、宮越賢治船長が作詞、25世観世左近元正帥により作曲され、昭和46年5月6日、皇太子同妃殿下の行啓のもとに第1回戦没船員追悼式が挙行されるにあたり、能楽「海霊」を奉納することとしていましたが、降りしきる雨により懇親会場で奉納されました。

それ以来、追悼式典では「海霊」が宮越船長をシテ(主役)として観世一門によって奉納されることとなりました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、その後は観世一門により絶えることなく奉納が続けられています。



波静かなれ とこしえに

第49回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

式典は参列者全員で、戦没・殉職船員6万3614人の鎮魂と海洋永久の平和と安全を祈念して黙とうを捧げた後、日本殉職船員顕彰会を代表して、朝倉次郎会長が「式辞」を、国を代表して「内閣総理大臣追悼の辞」を大塚高司国土交通副大臣が代読した。

◎式辞 朝倉次郎 会長



本日ここに、戦没船員・殉職船員のご遺族、関係者の方々、多数のご参列を得て、第49回戦没・殉職船員追悼式を挙行いたします。戦没船員の碑には、先の大戦で犠牲となった戦没船員 6万643人

と、海難などにより殉職された船員 2千971人の尊い御霊が、眠っておられます。

熾烈を極めた先の大戦において、祖国を思い、家族を案じつつ、戦禍に斃れた舟人、海難などにより殉職された舟人、いまその御前（おんまえ）にあつて、御霊安らかなれと、心よりお祈り申し上げます。

終戦から74年、幾多の困難を克服し、海洋国家日本としての、今日の平和と繁栄が、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲のうえに築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。衷心より敬意と感謝の念を捧げます。

また、かけがえない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表します。

私たちは、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくこ

とを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ わが友よ

波静かなれ とこしえに

この碑に刻まれた言葉を、ご参列いただいた皆様とともに御霊へ捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

◎内閣総理大臣追悼の辞

大塚高司 国土交通副大臣代読



第49回追悼式が挙行されるに当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に對し、謹んで追悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦においては、6万人余りの船員の方々が、祖国を思い、家族を案じつつ、尊い命を失われました。戦後も、海難事故や労働災害により2千900人を超える船員の方々がその職に殉じられるとともに、東日本大震災においては、海と共に生きる多くの方々が犠牲になりました。

今日の平和と繁栄は、海とともに

生きた多くの方々の尊い犠牲の上に、築かれたものであります。私たちは、そのことを、新しい時代「令和」になっても、しっかりと心に刻み続け、決して忘れることはありません。衷心より、敬意と感謝の念を表します。

祖国の未来を想い、蒼海に眠る船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、改めてここに固くお誓いいたします。

御遺族の皆様深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の平安な眠りを心からお祈りいたします。



献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」がおごそかに演奏される中、献花が行われ



① 献花を捧げる朝倉会長



② 左から、ご遺族の小野寺さん、福本さん、今田さん、中里さん

た。顕彰会を代表して朝倉次郎会長（写真①）、ご遺族を代表して戦没船員遺族の中里洋平さんと今田小夜子さん、殉職船員遺族の福本健治さんと小野寺麗子さん（写真②）に続いて、大塚高司国土交通副大臣（写真③）が白菊を捧げた。

◎来賓・各界代表献花者（敬称略）

- 中里 洋平（戦没船員遺族代表）
- 今田小夜子（戦没船員遺族代表）
- 福本 健治（殉職船員遺族代表）
- 小野寺麗子（殉職船員遺族代表）
- 大塚 高司（国土交通副大臣）
- 衛藤征士郎（海軍振興連盟会長）

衆議院議員 名代神田信浩

- 植村 保雄（海軍振興連盟事務局長）
- 磯田 裕治（日本船主協会副会長）
- 重 義行（大日本水産会専務理事）
- 森田 保己（全日本海員組合組合長）
- 酒井智代子（全国海友婦人会会長）
- 上地 克明（横須賀市長）
- 久保 徹（神奈川県横須賀土木事務所長）
- 奈良 和人（神奈川県浦賀警察署長）
- 渡邊剛次郎（海上自衛隊横須賀地方総監）
- 國分 良成（防衛大学校長）
- 宮崎 一巳（海上保安庁 第三管区海上保安本部長）
- 前久保勝己（国土交通省海難審判所長）
- 平野 研一（運輸安全委員会事務局 横浜事務所長）
- 天谷 直昭（日本海事センター常務理事）
- 竹内 俊郎（東京海洋大学長）
- 野崎 哲一（海技教育機構理事長）



③ 献花を捧げる大塚国交副大臣

◎式電をいただいた方々（敬称略）

- 石破 茂（衆議院議員）
- 前原 誠司（衆議院議員）
- 片山虎之助（参議院議員）
- 谷内 繁（厚生労働省 社会・援護局長）
- 山村 浩（防衛省 海上幕僚長）
- 武田 廣（神戸大学長）
- 賞雅 寛而（富山高等専門学校長）
- 林 祐司（鳥羽商船高等専門学校長）
- 辻 啓介（広島商船高等専門学校長）
- 石田 邦光（弓削商船高等専門学校長）
- 福田 勝哉（大島商船高等専門学校長）
- 森 勉（公益財団法人偕行社理事長）
- 山内 守武（福岡海寿会会長）



植村さん、神田さん



重さん、磯田さん



酒井さん、森田さん



左から奈良さん、久保さん、上地さん



左から宮崎さん、國分さん、渡邊さん



左から野崎さん、竹内さん、天谷さん、平野さん、前久保さん

戦没・殉職船員の御霊に献杯

追悼式を終えて、参列者はマイク
口バスで、また足腰の健康な方々は
汗だくになりながら徒歩で懇談会場
の観音崎京急ホテルに移動し、目の
前に広がる日本の海の大動脈、浦賀
水道航路を行き交う船を眺めながら
恒例の懇談会を開催した。

懇談会では、日本殉職船員顕彰会
の朝倉会長のあいさつに続いて、大
塚高司国土交通副大臣より「亡くな
られた船員の安寧とご参会の皆さま
のご加護を賜りますよう祈念して献
杯」のご発声により、遺族の方々を
はじめ関係者らがテーブルを囲ん
で、和やかに歓談のひと時を過ごし
た。



懇談会であいさつする朝倉次郎会長



大塚高司国土交通副大臣の献杯のご発声により和やかな懇談会がはじまった



お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
電話 03・3234・0662



終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日）に観
音崎公園「戦没船員の碑」で献
花式を行います。ご案内するの
は、当会役員など約60人ですが、
どなたでも参列することができ
ます。参列される場合は、バス
等の関係から顕彰会に必ずご連
絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテ
ル集合 ▽11時30分マイク口バ
スで戦没船員の碑へ▽同50分慰
霊碑の献花台前に整列 ▽「全
国戦没者追悼式」のラジオ実況
放送に合わせて総理大臣式辞
▽12時黙とう、戦没船員の御霊
を追悼し、海洋永遠の平和を誓
います。 ▽同02分天皇陛下の
お言葉を聞き、閉式。マイク口
バスで観音崎京急ホテルへ戻っ
て昼食・解散となります。
服装は、白ワイシャツに黒ネ
クタイの軽装でお願いします。
例年、当会の役員員のほか、
海事関係者や当会役員経験者な
ど40人余が参列し哀悼の誠を捧
げます。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています



実行委員の皆さん

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第49回追悼式には、海事関係14団体37人と個人協力者5人に顕彰会スタッフ4人を加えた46人が携わりました。

追悼式当日の早朝は、厚い雲と時おり突風とにわか雨により、天候を危ぶみましたが、式典が始まる頃には天候も回復し安堵したのもつかの間、参列者の方々が献花している最中に、ぽつりぽつりと雨が降りだし、大粒の雨に打たれながらも「海霊」が奉納されました。

実行委員各位の多大なご協力により、大きな混乱もなく滞りなく挙行できました。皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望がよせられました。その一部を紹介します。

■男性

今回初めて戦没・殉職船員追悼式の実行委員を務めさせていただきました。事前の打合せ、前日準備、当日と日本殉職船員顕彰会の方々をはじめとした多くの方々に支えられた3日間であったと感じています。

今までの私にとって戦争とは、小中学校で年号と起こった事、関わった主要人物だけを暗記して、テストで点を取るだけでした。その程度の知識しか持ち合わせていない私にとっては半世紀以上も昔の出来事という認識が強かったと思います。しかし、今回の追悼式はあいにくの天候ではありましたが、多くの遺族、関

■男性

係者の方々が式典に出席する姿を見て正直驚くのと同時に、参列者の方々と私の間には戦争に対して大きな認識のズレがあるのではないかと感じました。今一度自分なりに調べたいと感じるきっかけとなりました。これから船乗りを目指す者として、船乗りの先輩方に対して敬意を表し、学んでいきたいと思えます。

戦没・殉職船員のご冥福と遺族の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

今回も式場車両係と懇談会会場係をさせて頂きました。

式場車両係は出席者の皆様が安全に参列して頂けるようお声掛けをして式場へはスロープ経由で向かって頂くように案内しました。今回も特に問題なく終わる事が出来ましたので皆様の協力に感謝申し上げます。

また、追悼式典終了後の懇談会場での対応係をさせて頂きましたが、声を掛けさせていただいた皆さんより顕彰会には感謝しておりますとお言葉を頂きました。ボランティアとして令和元年の追悼式に参加させて頂く者としてうれしく思います。

令和時代になり戦没船員を直接に



参列者の案内について、綿密な打ち合わせ

知らない人が主流の時代になります。先代より戦没船員の追悼が引継がれ、今回も多くの方々が参加して頂いた事に感謝し平成時代と同じように追悼式が行われますよう顕彰会の方々にお願いし、今回も追悼式のお手伝いが出来ました事は出席頂いたご遺族ならびに関係者各位、準備に当たられた顕彰会の方々にお礼を申し上げます。

▼横須賀海洋少年団（9人）▼東京海洋大学海事普及会（10人）▼全日本海員組合本部（4人）▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」（2人）・「木洋会」（2人）▼日本船主協会（2人）▼大日本水産会▼日本海事広報協会▼日本水先人会連合会▼海技振興センター▼海洋会▼全日本船舶職員協会▼日本船長協会▼日本船舶機関士協会、以上各1人▼個人協力者（5人）に顕彰会（4人）が加わり46人で実行委員会を構成しました。



「戦没船員の碑」広場

■男性

今回、私は初めて戦没・殉職船員追悼式に参加させていただき、戦争の悲惨さを改めて感じました。

現在、戦争を実際に体験された方々が減ってきており、また、戦争の被害というものも、直接私たちの目から見えづらくなってきていると思います。

その中で、このような「追悼式」はもちろん、亡くなった方々を「偲ぶ」ためでありますが、その他に、「戦争を忘れない」意味合いも大きいのだと感じました。

特に私たち、若者の世代はしっかりとこれを伝えていく責任があることと自他、自覚している人が少ないと思います。

今回参加して気づいたこと、感じたことをまずは自分でよく考え、そして周りに伝えていきたいと考えています。

来年で第50回を迎えるこの追悼式が51回52回、100回と続いていくことを願いながら、私たちにできることを小さなことでもやっていけたらと思っています。

このような催しに実行委員として参加させて頂けたこと、改めて心より感謝申し上げます。

■女性

私たちの世代は戦争を知らず、豊かさの中幸せに育ってきました。その中、何10年経っても癒えぬ気持ちを持ち涙する姿に接すると現在の平和な時代のありがたさを感じさせられます。毎年貴重な経験をさせていただいていると思っております。

ご高齢になられても悪天候の中でも追悼式にいらしている方々が安全に安心して追悼の時を過ごしていただけのように、配慮を重ねておられる顕彰会の方々と一緒に手伝いをさせていただきます嬉しく思っております。

■男性

今回は2回目の実行委員ということで、式の流れ等も理解できており、比較的落ち着いて作業することが出来たと感じています。

前回は倒れた方がいて救急車が入って来たり、今回は途中から雨が降って来たりと、なかなかスムーズには進まない中で無事式典が終了できたのはベテランの方々の方々の長年の経験や対応が大きいと感じます。

また、次回実行委員に参加することがあれば、今回前回の経験をしっかりと生かして、いろいろな事態にも対応できるようにできればいいな



いなど感じました。

参列者がお帰りの時、白菊を手渡し東京海洋大学海事普及会の皆さんと荷物を積込む実行委員の皆さん。

参列した皆さまのお話し

■伊藤 哲さん (愛知県)



今日は名古屋から来ました。父親は大阪商船の「はなぶるぐ丸」の機関長をしていたが、軍人に乗せて送っている途中、爆撃を受けた。

神戸の戦没した船と海員の資料館で、父親の乗っていた船や状況を調べてもらい感謝している。今回で観音崎を訪れたのは6回目ぐらい。

■嶋 六三さん (神奈川県)



今回で4回目の参加となり、横浜から来ました。日本郵船の「徳島丸」に乗船していた叔父が、台湾沖で魚雷攻撃を受け亡くなりました。叔父の縁のある場所に行った際に、偶然が重なりこの式のことを知り、不思議な思いで毎回

参加しております。

神戸にある戦没した船と海員の資料館は知っていますが、まだ行ったことはありません。

■横山佳則さん (神奈川県)



もう5回目以上の参加となり、横浜から来ました。昔に、兄が農林省水産講習所の「白鷹丸」に乗船しており、小笠原から帰る時に攻撃を受け船が沈没し、亡くなりました。兄の慰霊をするために、参加しております。

■中村武広さん (福島県)



今回で2回目の参加で、福島県から来ました。かつて祖父が大阪商船の「ばたびあ丸」に乗船しており、物資を海外まで輸

送しに行き、その帰りに攻撃を受けて亡くなりました。追悼式は自分で調べて参加しておりますが、一言では言い表せない沢山の思いを持って参加しております。

■大竹昭子さん (千葉県)



千葉県・船橋市から観音崎に慰霊に来ました。10数年以上前に初めて観音崎を訪れてから、今回で6回目ぐらい。戦没したのは父親で、日本海運の「あきつ丸」に乗船していて、九州の海で魚雷攻撃に遭い亡くなった。今回は青森市の姉(小林和子)が体調不調で来れないのが残念。

■中里洋平さん (神奈川県)



兄が福成丸(福洋汽船)の航海士として乗船し、西大東島沖で魚雷の攻撃を受けて戦没。毎年、慰霊祭に来ていますが、代表献花を頼まれたのは初めてなので、緊張している。

■益子義弘さん (埼玉県)



今回で5回目ほどの参加となります。かつて私は県立観音崎公園の広場製作に携わりました。亡くなられた船員の方やそのご遺族の方を思い、遠い海の水平線が祈りの対象として捉えられ、それが出来る様にし、また、静かな自然の道を活かすことも意識し、広場に辿り着くまでの道中に心を落ち着けられることを意識して製作に当たりました。広場の製作者として、遺族の方々の気持ちがいっかりと届けられているかを確認するために、追悼式に訪れています。



観音崎灯台

上皇 上皇后 両陛下

戦没船員へのおことば

上皇 上皇后 両陛下におかれまして

は、昭和46年、第1回戦没船員追悼式にご臨席されてから、節目の追悼式や折にふれて「戦没船員の碑」に、おはこびいだいております。両陛下のおことばをご紹介します。

○第1回戦没船員追悼式

皇太子殿下（現上皇陛下）おことば

昭和46年5月6日

新しく碑が建立されたのを機に、本日ここで行われる戦没船員の追悼式に臨み、さきの大戦中、極めて困難な任務に従事して、ついに船と運命を共にした幾多の商船、漁船の靈に、改めて深く哀悼の意を表するものであります。

かけがえのない肉親を失った遺族の皆さんの、今日までの悲しみと苦勞は、はかり知れないものがあると思います。しかし、なくなつた人々もおそらくは強く望んでおられたように、遺族の皆さんがそれぞれの道を更に強く歩みつづけられることを希望してやみません。

今日、わが国の海運、水産は、かつてより更に世界的規模に発展して、世界経済の繁栄に貢献しております。戦時中、国に殉じて海に没した人を思うにつけ、永遠の海の平和

を心から祈念します。

○第30回戦没・殉職船員追悼式

天皇陛下おことば

平成12年5月15日

本日第30回戦没殉職船員追悼式に臨み、さきの戦争の戦没船員を始め、船員としての職務に殉じた人々の上を思い、深い感慨を覚えます。

昭和12年から8年間にわたつた戦争の間に、祖国のために海上輸送などの業務に従事しながら、戦火により尊い命を失つた我が国船員は、6万人余に上ります。これらの人々の御靈を慰めるために、関係者の努力によつてこの戦没船員の碑が建てられ、今日では、戦後、海上で職務の遂行中殉職した千700人を超える船員の御靈も併せ祀られています。

第1回戦没船員追悼式が行われたのは昭和46年、降りしきる雨の中でした。その後私どもは二度ここを訪れていますが、ここに祀られた船員が、碑の前に広がる果てしない海に抱いたであろうあこがれと、その海が不幸にもその人々が痛ましい最後を遂げた場所となつたことを思う時、かけがえのない肉親を失つた遺族や亡くなつた船員と共に航海をした同僚の人々が抱き続けてきた深い

悲しみが察せられます。

戦後50年余を経て、当時の戦争のことが人々の心から次第に遠いものとなつていく今日、私どもは我が国の人々が戦後に築き上げた平和と繁栄が戦没船員を始めとする、数しれない人々の尊い犠牲の上に達成されたものであることを決して忘れてはならないと思います。

第二次世界大戦後、局地的戦争はありましたが、多くの海域に平和が戻り、戦後の我が国が発展する上で海運や水産に携わる船員の果たした役割は誠に大きなものがありました。これからもこの海の平和を守るために皆で努めていくことが大切であり、それが亡くなられた人々に報い、遺族の意にそう道でもあると思います。

ここに御靈の安らかならんことを祈り、併せて遺族の幸せを願つて追悼式に寄せる言葉といたします。

○皇后陛下80歳誕生日のおことば

（抜粋）

平成26年10月

第二次大戦では、島々を含む日本本土でも100万に近い人が亡くなりました。又、信じられない数の民間の船が徴用され、6万に及ぶ民間人の船員が、軍人や軍属、物資を運ぶ途上で船を沈められ亡くなつていくことを、昭和46年に観音崎で行われた慰霊祭で知り、その後陛下とご一緒し何度かその場所を訪ねました。戦後70年の来年は、大勢の人たち

の戦中戦後に思いを致す年になろうと思います。

○天皇陛下82歳誕生日のおことば

（抜粋）

平成27年12月

今年のは先の大戦が終結して70年という節目の年に当たります。この戦争においては、軍人以外の人々も含め、誠に多くの人命が失われました。平和であつたならば、社会の様々な分野で有意義な人生を送つたであろう人々が命を失つたわけであり、このことを考えると、非常に心が痛みます。軍人以外に戦争によつて生命にかかわる大きな犠牲を払つた人々として、民間の船の船員があります。将来は外国航路の船員になることも夢見た人々が、民間の船を徴用して軍人や軍用物資などをのせる輸送船の船員として働き、敵の攻撃によつて命を失いました。日本は海に囲まれ、海運国として発展してまいりました。私も小さい時、船の絵葉書を見て楽しんでることがありますが、それらの船は、病院船として残つた氷川丸以外は、ほとんど海に沈んだということの後を知りました。制空権がなく、輸送船を守るべき軍艦などもない状況下でも、輸送業務に携わらなければならなかつた船員の気持ちを本當に痛ましく思います。今年の6月には第45回戦没・殉職船員追悼式が神奈川県奈川町の戦没船員の碑の前で行われ、亡くなつた船員のことを思い、供花しました。

殉職船員遺族援護 ご遺族からのお便り

本紙夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。現在、遺児援護金の給付対象遺児は2人。本年、高校を卒業した、織田朝陽くん、大竹愛梨さん、保護者からのお便りを紹介します。



織田朝陽くん。将来の夢は大型フェリー乗組員

■織田朝陽くん（広島県）
 今年は、まだ5月だというのに夏のような日差しが照りつける日が続いています。日本殉職船員顕彰会のみなさま、いつも私たち家族のことを見守ってください、ありがとうございます。

私は、高校を卒業後、父と同じ大型のフェリーに乗って仕事がしたいという夢に向かい、海洋学部のある大学に進学いたしました。

■大竹愛梨さん（三重県）
 私の高校生活の思い出は、放課後や休み時間に友達と何気ないことで笑い合ったり同じ趣味の人と白熱した議論が出来た事です。高校で、中学校には居なかった価値観の持ち主や面白い考え方をする新しい友人に沢山出会えました。新しく出会えた友人達は、これまでの私の狭い世界を大きく広げてくれました。行事がある度に、友人の新しい一面を知る

私は、中3の夏、父が亡くなってからいろんな人に出会い、いろんな人に支えられて頑張ってくる事ができました。今は、野球を頑張っています。寮の裏に海があつて、時々大きな船が来たり、客船が来たりするのを見えています。そして、あれに乗れるように頑張るぞと思います。勉強も少しやっています。これからも、感謝の気持ちをもって、仲間を大切にして、さらに頑張ります。

今まで、大きなご支援、ありがとうございます。

■佐藤亜希さん（青森県）
 早いもので3月27日で丸4年が経ちました。3歳になったばかりだった息子も七歳になりました。春から2年生になります。少しずつではありますが、家の手伝いもしてくれる

ことができてるので嬉しく思った事が何時でも鮮明に思い出されます。その中でも修学旅行は特別楽しくて長崎の夜景を見ながら友人と人生ゲームをしたことはきっと一生忘れないでしょう。

3月1日、無事高校を卒業することが出来ました。高校で得た沢山の思い出はこれからも私の人生を鮮やかに彩ってくれると思います。

貴会には、長い間ご支援を頂き本当にありがとうございます。

■織田幸恵さん（広島県）
 お世話になっております。母子ともにもわりの方がたに励ましていただきながら元気に過ごしております。上の子は夢を追って大学に進学し新たなスタートを切ることができました。下の子は寂しい気もちもありますが、最高学年になるので、はりきっております。

日本殉職船員顕彰会のみなさまからのご支援に感謝し、それぞれの場で精いっぱい頑張っていこうと思っております。ありがとうございます。

ようになり頼りになるお兄さんになってきてくれています。毎年のようにインフルエンザになっていたのに、今年はおかしくも元気に登校してくれました。登校前には、パパに行ってくださいのあいさつもしてから行ってくださる優しい子に成長してくれました。いつもありがとうございます。

殉職船員遺族援護

遺児へ援護金を支給

当会の殉職船員遺族援護事業は、商船、旅客船、港湾船などに乗船中、海難や労災事故で殉職した船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。

支給期間は、遺児が生まれてから義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会（☎03・3518・6121）が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成30年12月1日以降、令和元年6月30日までの間に、次の方に新たに賛助会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費 110万円、◎個人賛助会費 110万円をお願ひしています。

■協賛会員は「個人」にお願ひしているもので、年会費は103千円です。当会は、税制上の優遇制度による税額控除の対象法人です。当会への寄付金（賛助・協賛会費、献花料等）は、確定申告を行うことにより、「所得控除」「税額控除」の対象となり税金の還付が受けられます。

新たな賛助会員

◎佐多勝彦様（大阪府箕面市）
◎追悼式献花料（順不同）

- ◎地家啓二様（神奈川県川崎市）
- ◎大圖富美子様（水戸市）
- ◎藤井靖子様（広島県府中市）
- ◎川畑寛恵様（兵庫県明石市）
- ◎新田尚子様（山口県宇部市）
- ◎高野さよ子様（静岡県）
- ◎水野孝子様（新潟市）
- ◎座田重光様（千葉県白井市）
- ◎山岸信一様（前橋市）
- ◎嶋田早苗様（京都府八幡市）
- ◎中野昭男様（名古屋市中区）
- ◎山本大道様（山口県下関市）
- ◎山本千子様（大阪府吹田市）
- ◎小野恵美様（東京都港区）
- ◎棚池さつき様（東京都多摩市）
- ◎後藤美津子様（横浜市）
- ◎今田小夜子様（埼玉県川口市）
- ◎西本久美子様（埼玉県越谷市）

◎守田忠様（宮城県名取市）

- ◎有沢美香様（埼玉県越谷市）
- ◎津田芳子様（兵庫県揖保郡）
- ◎齋藤有美様（神奈川県川崎市）
- ◎山藤浩子様（広島市）
- ◎高橋柳子様（千葉県成田市）
- ◎中村武広様（福島県いわき市）
- ◎後藤沙恵様（横浜市）
- ◎澤根美智子様（岡山県笠岡市）
- ◎小野寺麗子様（宮城県気仙沼市）
- ◎村上菊野様（福岡県北九州市）
- ◎福本健治様（神奈川県横須賀市）
- ◎全日本海員生活協同組合様（横浜市）
- ◎鴨居地区連合町内会様（神奈川県横須賀市）
- ◎鳥羽商船高等専門学校様（三重県鳥羽市）
- ◎富山高専専門学校様（富山県新湊市）
- ◎大島商船高等専門学校様（山口県大島郡）
- ◎広島商船高等専門学校様（広島県豊田

郡）

- ◎弓削商船高等専門学校様（愛媛県越智郡）
- ◎鶴丸海運株式会社様（福岡県北九州市）
- ◎宮越和子様（千葉県佐倉市）
- ◎海員組合職員OB全国会様（東京都港区）
- ◎宮越健郎様（千葉県佐倉市）
- ◎才津玲子様（横浜市）
- ◎（一財）全日本海員福祉センター様（横浜市）
- ◎千葉政俊様（千葉県松戸市）
- ◎米山隆昭様（東京都北区）
- ◎荒谷秀治様（横浜市）
- ◎齋藤清伍様（千葉市）
- ◎（一財）船員保険会常務理事中澤政光様（東京都渋谷区）
- ◎日本海運会館様（東京都千代田区）
- ◎小林さかえ様（東京都目黒区）
- ◎松本三七一様（兵庫県姫路市）
- ◎南洋海運株式会社様（神奈川県藤沢市）
- ◎豊丸漁業有限公司様（神奈川県横須賀市）
- ◎（一財）日本航路標識協会様（東京都千代田区）
- ◎（一財）船員保険会会長霜鳥一彦様（東京都渋谷区）
- ◎（公財）海技資格協力センター様（東京都千代田区）
- ◎（一社）日本中小型造船工業会様（東京都千代田区）
- ◎（公財）日本海事センター様（東京都千代田区）
- ◎（公財）水交会様（東京都渋谷区）
- ◎東郷会様（東京都渋谷区）
- ◎（一社）外航船員医療事業団様（東京都千代田区）
- ◎海翔会様（東京都港区）
- ◎荒川博様（東京都三鷹市）
- ◎小野寺功一様（宮城県気仙沼市）
- ◎横浜海員会館様（横浜市）
- ◎人見英男様（神奈川県横須賀市）
- ◎福岡海寿会様（福岡市）
- ◎曾根幸雄

様（横浜市）

- ◎才津俊朗様（横浜市）
- ◎五十嵐温彦様（神奈川県大和市）
- ◎全国海員学校同窓会様（埼玉県新座市）
- ◎本村泰清様（神奈川県逗子市）
- ◎橋本則子様（神奈川県三浦市）
- ◎山下義韶様（神奈川県中郡）
- ◎鈴木成男様（東京都東大和市）
- ◎佐藤利信様（千葉県富里市）
- ◎多胡明美様（東京都小金井市）
- ◎（順不同）寄付金
- ◎清水信吉様（神奈川県横須賀市）
- ◎大成景俊様（広島県東広島市）
- ◎富田隆滋様（大阪府池田市）
- ◎藤井栄子様（埼玉県上尾市）
- ◎猪股貞雄様（東京都清瀬市）
- ◎三岳力郎様（千葉市）
- ◎小澤遊祐様（千葉県習志野市）
- ◎山下琥生様（東京都世田谷区）
- ◎藤田善範様（東京都大田区）
- ◎川田レイ子様（兵庫県西脇市）
- ◎伊藤喜市様（横浜市）
- ◎多胡明美様（東京都小金井市）
- ◎田子のぶ子様（長野県上田市）
- ◎田淵商事株式会社様（大阪市）
- ◎（順不同）遺族援護寄付金
- ◎関洋一郎様（福岡市）
- ◎中村順子様（千葉県船橋市）
- ◎岡靖晃様（神奈川県横須賀市）
- ◎高柳恵子様（千葉県市）
- ◎海事思想普及研究会様（神戸市）
- ◎上窪精一郎様（東京都世田谷区）
- ◎深谷三郎様（水戸市）
- ◎戦時徴用船の最期
- ◎大久保一郎遺作展寄付金
- ◎中村圭志様（神奈川県高座郡）
- ◎終戦記念日献花式供花料
- ◎米山隆昭様（東京都北区）

会長が交代しました

朝倉さんから工藤さんへ



朝倉次郎前会長



工藤泰三新会長

令和元年6月27日開催した第20回定時評議員会で、評議員ならびに役員(理事・監事)の任期満了により、評議員14人(新任2人、再任12人)、理事15人(新任7人、再任8人)、監事2人(再任2人)の改選が審議のうえ決議された。

同日、改選された理事、監事により、第30回臨時理事会を開催し、代表理事・会長、副会長、業務執行理事の選任について審議した。

代表理事・会長には、工藤泰三さん(日本郵船特別顧問)、副会長に内

藤忠顕さん(日本船主協会会長)、森田保己さん(全日本海員組合組合長)、栗林宏吉さん(日本内航海運総連合会会長)の選任を決議した。

退任した理事は、朝倉次郎さん(前代表理事・会長、川崎汽船特別顧問)、小比加恒久さん(日本内航海運組合総連合会前会長)、伊藤松博さん(日本海事広報協会前理事長)、井手祐之さん(日本機関士協会前会長)、石橋武さん(日本水先人会連合会前会長)、重義行さん(大日本水産会前専務理事)、山本勝さん(海洋会前会長)。

新たに就任した理事は、内藤忠顕さん(日本船主協会会長)、栗林宏吉さん(日本内航海運組合総連合会会長)、伊藤國男さん(日本海事広報協会理事長)、内海和彦さん(大日本水産会専務理事)、掛谷茂さん(日本機関士協会会長)、西本哲明さん(日本水先人会連合会会長)、平塚惣一さん(海洋会会長)。

評議員は、岡本建之介さんから佐田昌弘さん(海洋会専務理事)、高瀬敏一さんから狭間満雄さん(日本船舶機関士協会専務理事)に交代した。選任された役員(理事・監事)の方々の任期(2年)は、令和3年(2021)6月開催予定の定時評議員最終結時まで。

評議員の方々の任期(4年)は、令和5年(2023)6月開催予定の定時評議員最終結時までとなります。

知られざる民間船舶の悲劇

戦時徴用船遭難の記録画

大久保一郎遺作展

埼玉県越谷市で開催

入場無料

第45回

「戦時徴用船の最期」大久保一郎遺作展

- ▽会期 8月8日(木)から8月13日(火)まで
- 開館時間は、10時00分から18時00分まで。
- ・初日の8月8日(木)は、13時00分に開場。
- ・最終日の8月13日(火)は15時00分に終了。

大阪商船(現・商船三井)の嘱託画家だった大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」言われ、戦時統制下の厳しい中、生還した船員の証言を聞き記録画を密かに描きました。

- ▽会場 サンシティ ホテル
- ポルティコホール
- (越谷コミュニティセンター)
- ▽主催 (公財) 日本殉職船員顕彰会



魚雷攻撃により棒立ちとなったて沈没する「ぶら志る丸」